

今年に駆ける

東京から岩手県滝沢村に転居して、初めての正月を迎えた。東北の復興を願って、歌声で元気を発信していこうと誓っている。

滝沢村は夫でギタリストの道夫さん(35)の故郷。東日本大震災後、「活力のあるうちに移って家族の絆を大切にしたい」と、昨年4月から夫の両親と4人で暮らしている。

昨年12月21日、盛岡市内の「サロンしんちゃん」で開いた



〈こばやし・ゆうこ〉昭和47年、福島県会津若松市生まれ。同県の郡山女子大短大卒。平成22年の浅草JAZZコンテスト、23年の神戸ジャズヴォーカルクイーンコンテストでグランプリを受賞した。24年4月に東京から岩手県滝沢村に移住。

岩手・滝沢村に移住したジャズシンガー 小林ゆうこさん(40)

1



クリスマスコンサートで歌う小林ゆうこさん

被災地を歌声で元気に

クリスマスコンサートでは、テネシー・ワルツやホワイト・クリスマスなどの名曲を道夫さんの伴奏で披露。甘くつややかなで、ふくらみのある歌声は、集まった約30人を魅了した。

実力は実証済みだ。平成22年の第30回浅草JAZZコンテスト・ヴォーカル部門、23年の神戸ジャズヴォーカルクイーンコンテストで、グランプリを獲得し、今後、国内外で活躍が期待される存在なのだ。しかし、遅咲きともいえるキャリアは平坦ではなかった。

福島県会津若松市の出身。歌うことが好きで、小学生のころからスナックのカラオケなどで歌う日々。県内の郡山女子大短大の音楽専攻に進んだが、「自分分はクラシックには向いていない」と思い悩んでいた。そんなとき、近所のジャズライブのバーに連れて行ってくれたのが父、野崎幸一郎さんだった。「ここで歌いたい」と思ったのが、ジャズへの開眼。どんどのめり込んだ。

4年ほど地元で歌い、東京で約2年間暮らしたあと郡山市に戻ったが、ぶち当たったのが言葉の壁。一念発起して、30歳で渡米し英語をたたき込んだ。約2年間の生活を「最後の半年で、ようやく会話ができるようになったのがとてもうれしかった」と振り返る。生きた英語の勉強は、表現力に深みを与えた。そんな折、幸一郎さんに見つかった。ジャズを教えるくれた父親のため「何か形を残したい」と21年の浅草コンテストを受け、決勝に残った。決勝の数カ月前に幸一郎さんは亡くなり成績は伝えられなかった

が、病室でウエディングドレスを見せることはできた。その後、相次いでグランプリを受賞した秘訣は「自分に向かず、聴いてくれるみなさんが喜ぶようなステーションにしようと思ったのがよかった」と振り返り、「聴く人が次の活力にできるような歌手でいたい」と宣言する。

昨年、東京の国立市と会津若松市でチャリティーコンサートに出演、東日本大震災の被災者たちを励ました。道夫さんが作詞・作曲の曲を含むセカンドアルバム「Two for the Road」もリリースした。

今年の目標は、まず盛岡の人たちに自分を知ってもらうことだ。そして、音楽教室を開く、CDをリリースする。道夫さんの「彼女にはずっと輝いてほしい。聴く人のために歌ってほしい。勉強してほしい」という注文に、「これからも聴きたい人にすぐお届けする『産直ジャズ』を続けていきます」とたのもししい言葉で締めくくった。

(原圭介、写真も)

◆ 新年を迎えた東北では、ある人は被災地の復興を願いながら、ある人は活力ある地元を目指しながら、精神的に活動を続けていく。平成25年の飛躍が期待される人々の今年への思いを聞いた。

東北
〒980-
仙台市青葉
区定禅寺
☎ 02
FAX 02
tohok
sanke
◆釜石
〒026-
岩手県釜石
市ササ
青森
〒030-
青森市
みど
☎ 01
FAX 01
aomor
sanke
盛岡
〒020-
盛岡市
住友生命
☎ 01
FAX 01
morio
sanke
秋田
〒010-
秋田市
AID
☎ 018
FAX 018
akita
sanke
山形
〒990-
山形市
☎ 02
FAX 02
yamag
sanke
福島
〒960-
福島市
NBFユ
☎ 02
FAX 02
fukush
sankei